

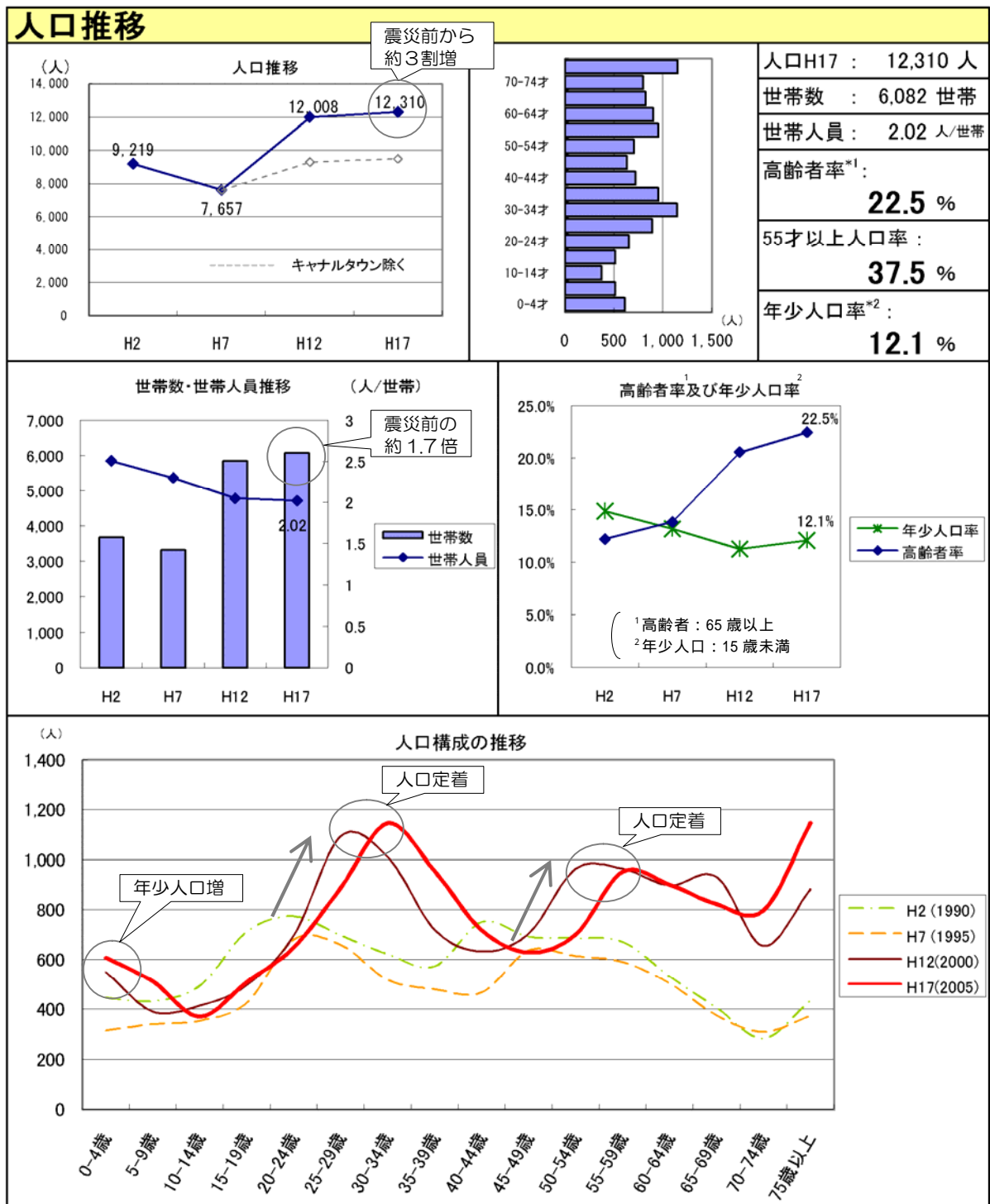
◆ 地区及び周辺の基礎データ

A . 人口動態

1 . 明親小学校区の人口・世帯数

- ・平成7年の震災以降、キャナルタウンの他、分譲マンションが大量供給されたため、急激に人口の定着が進んでいることが分かる。
- ・高齢者率、年少人口率は、神戸市の既成市街地平均とほぼ同水準である（次ページの神戸市人口指標等を参照）。

出典：国勢調査



●今後の住宅供給動向

- ・なお、今後、西側跡地の南側の出在家町2丁目に、153戸の分譲マンションが供給される予定である(平成21年12月下旬入居予定)。



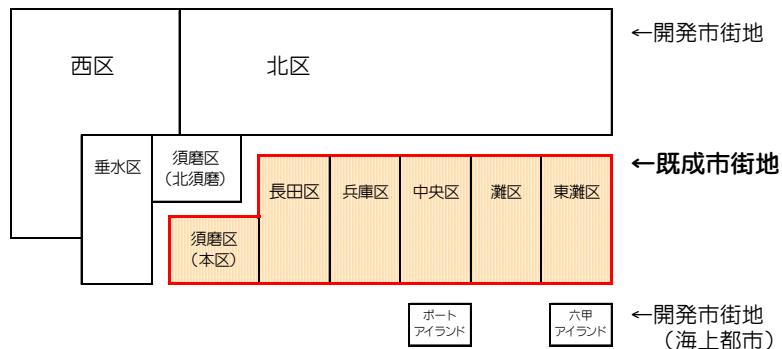
(参考) 神戸市全体、神戸市の既成市街地の人口等指標

神戸市全体、神戸市の既成市街地の人口等指標

項目	神戸市全体	既成市街地
人口(平成17年)	1,525,393人	700,993人
世帯数	643,351世帯	331,205世帯
世帯人員	2.37人/世帯	2.12人/世帯
高齢者率	20.0%	22.1%
55歳以上人口率	35.2%	36.9%
年少人口率	13.1%	11.6%

出典：国勢調査

【神戸市の市街地の区分図】

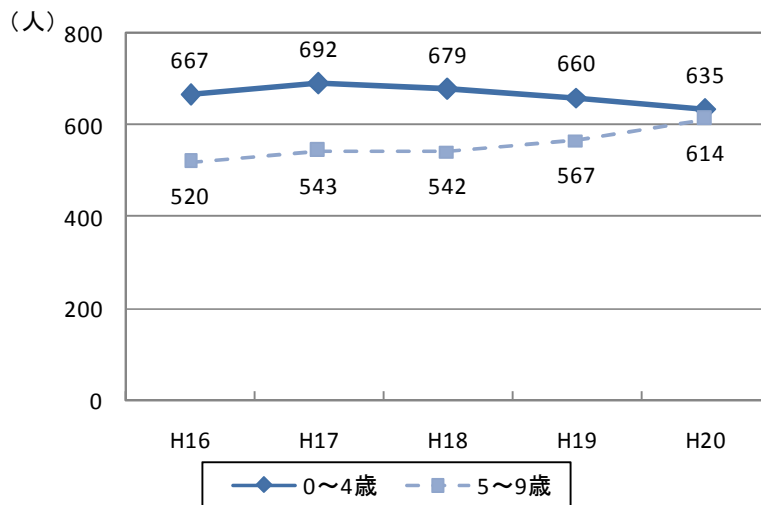


2. 5歳未満人口の動向（明親小学校区）

- ・小学校に入学前の5歳未満の人口について、各年の推移をみると、ここ5年は、約6～700人となっている。
- ・平成16～20年までの人口は、震災で人口が減少した平成7年（315人）※と比べて約2倍、震災前の平成2年（447人）※と比べても、約1.5倍にあたる。
- ・つまり、震災以降の人口定着により、5歳未満人口が急激に増加したことが分かる。

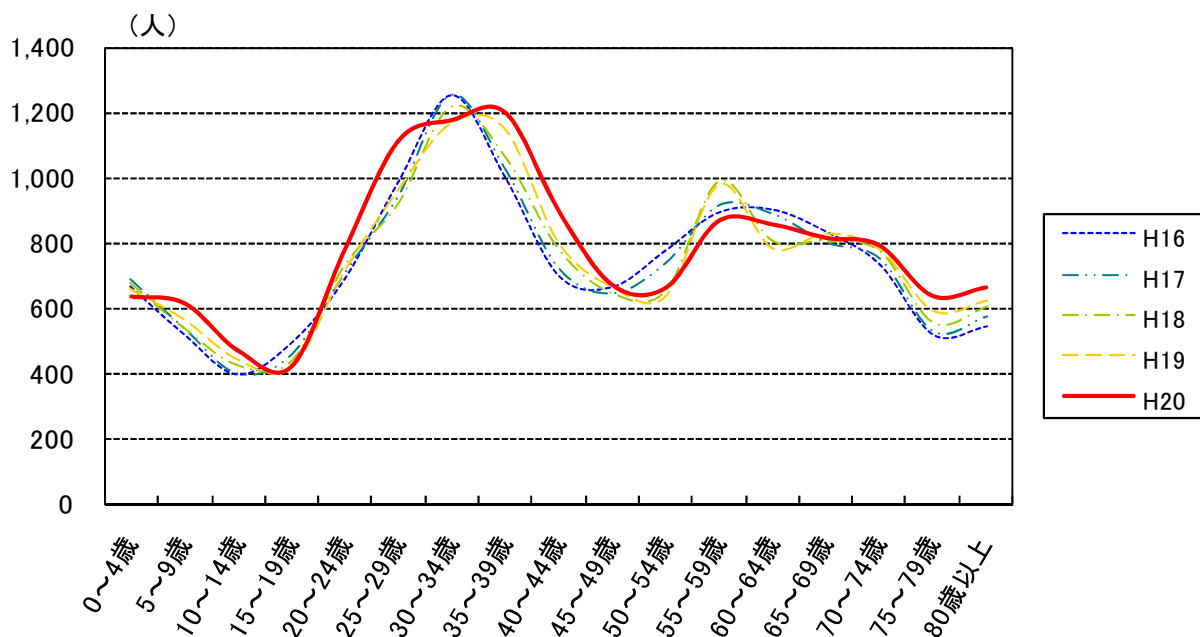
数字の出典は国勢調査による

明親小学校区 5歳未満人口の推移



（出典：住民基本台帳データ，各年6月末現在）

（参考）明親小学校区 5歳階級別人口の推移



（出典：住民基本台帳データ，各年6月末現在）

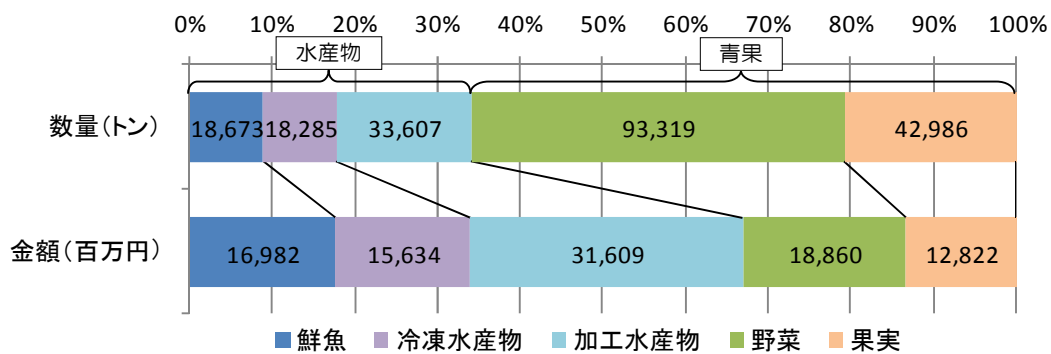
B . 中央卸売市場本場の取扱高等

1 . 取扱高の概要

(1) 取扱高の割合

- ・神戸市中央卸売市場本場では、青果と水産物を取り扱っている。
- ・平成19年の取扱高は、数量ベースでは青果が6割強を占めているが、金額ベースでは、水産物が6割強を占めている。

中央卸売市場本場の取扱数量及び、取扱金額（平成19年）

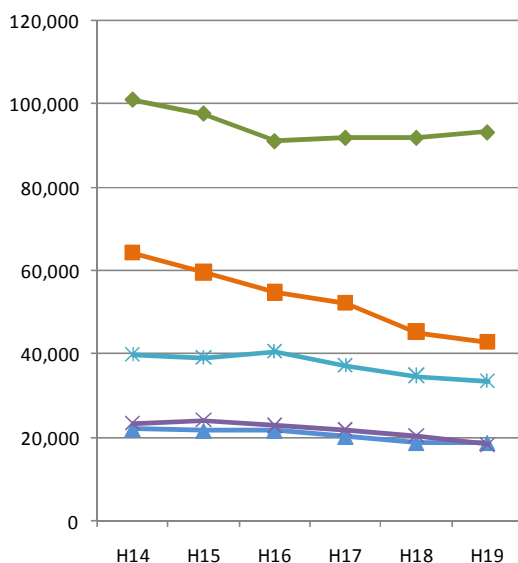


出典：神戸市中央卸売市概要（平成20年度）

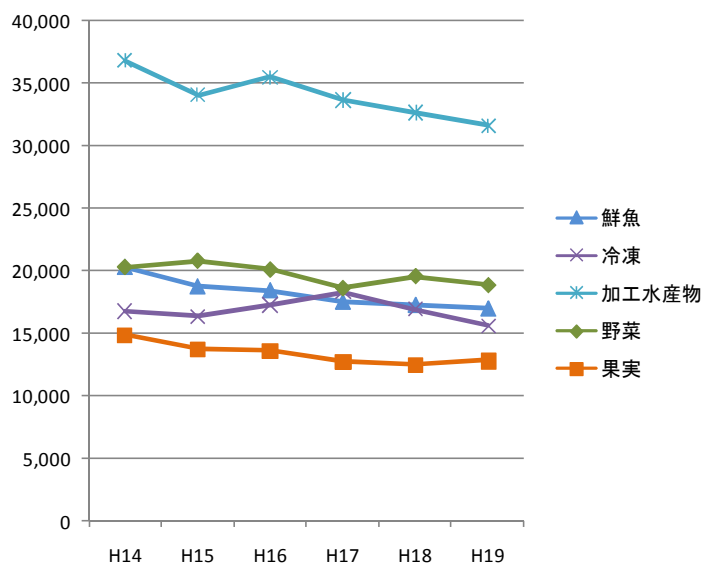
(2) 取扱高の推移

- ・数量ベース取扱推移をみると、野菜を除き減少傾向にある。特に果実の減少率が際だっている。
- ・金額ベースの取扱推移については、どの品目も微減傾向にある。

取扱数量の推移（トン）

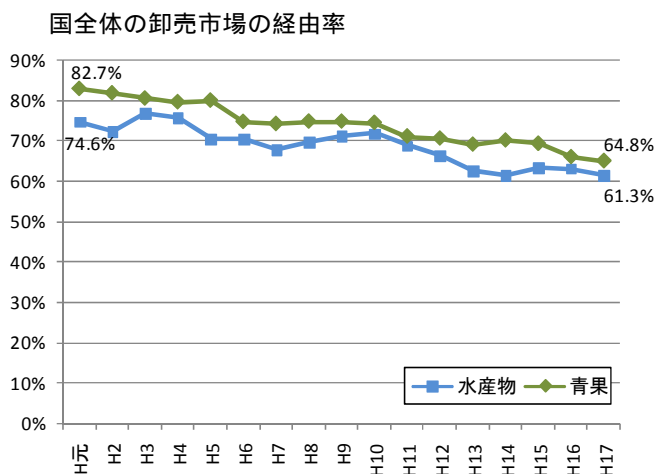


取扱金額の推移（百万円）



出典：神戸市中央卸売市概要（平成20年度）

(参考) 全国の卸売市場の取扱 (経由率)



出典：農林水産省ホームページ(「食料需給表」等による推計)

- ・国全体の卸売市場の経由率は、平成17年時点で、水産は61.3%、青果は64.8%と、いずれも6割強にとどまっている。
- ・経由率を平成元年と比べると、水産、青果ともに2割程度の減少となっている。

2. 地産・地消に関する産品

- ・地産・地消で、中央卸売市場をアピールできるものとして、季節感のある産品を以下に整理した。
- ・また、神戸産野菜のうち、有機栽培～減化学肥料栽培のもの19品目を、神戸のブランド野菜「こうべ旬菜」として売り出している。

兵庫県産の産品で市場取扱のもの(季節感のあるもの)

種別	品目	時期	産地
水産物	たい	11~12月	瀬戸内海
	はも	6~9月	大阪湾・瀬戸内海
	いかなご	2~4月	大阪湾・瀬戸内海
	ちりめん	4~7月	淡路
	たこ	7~8月	瀬戸内海
	かき	9~12月	瀬戸内海
青果	びわ	5~6月	淡路
	いちじく	7~9月	西区、川西
	たまねぎ	4~6月	淡路

こうべ旬菜

こうべ旬菜(19品目)
トマト
キャベツ
きゅうり
ニラ
青葱
ブロッコリー
ミニトマト
モロヘイヤ
レタス
サニー
ナス
大根
スイートコーン
ほうれん草
キクナ
しろな
青梗菜
小松菜
水菜